

平成28年度 第1回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会
「発達支援部会」会議録

日 時 平成28年 5月 27日（金）午後4時00分から午後5時30分

場 所 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階研修室

出席者 菅谷幸乃部会長、平沢真哉副部会長、福田弘子部会員、
土屋知子部会員、林恵利部会員（鎌ヶ谷市健康増進課主任保健師）
佐藤佳子部会員（鎌ヶ谷市こども発達センター分室主幹）
松村幸江部会員、須鎌ひろみ部会員
野中幹子部会員（鎌ヶ谷市学校教育課副主幹）

関係者 吉澤 翔（第2北総病院リハビリテーション科科长 星山部会員代理）

欠席者 星山伸夫部会員、岩田友理子部会員（鎌ヶ谷市障がい福祉課主任保健師）

事務局

（障がい福祉課） 齊藤実障がい福祉課長、藤嶋晶子課長補佐、中村浩主任主事
（もくせい園） 三浦幸嗣氏

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 0名

添付資料

- ・式次第
- ・平成28年度 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会組織図・各部会開催予定
- ・かまがやまなびい大学（しあわせ学部）事業・鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会共催講座のお知らせ

事務局より、欠席者の報告、出席者数が会議開催の定足数である過半数を満たしていることの報告及び傍聴者が0名であることを報告した。

1 挨拶

藤嶋障がい福祉課長補佐より挨拶。

2 議題

◆今年度のテーマについて

部会長

本日は、今年度の検討テーマについて話し合いたい。昨年度1年間、事例検討等を通じて何点か課題が上がっていたと思う。その中で、子どものライフステージの変化に対して、支援を効率的につなげることができていないという課題があった。議論の中では、サポートファイルがうまく機能することにより、この問題を解決できるのではないかという意見も出されていたと思う。サポートファイルの普及ということ今年度のテーマとしてはどうかと思う。この点も含めて皆様からご意見をいただきたい。

部会員

サポートファイルについては小中学校でもその活用を進めているので、その検証というか実態把握を行ってはどうか。サポートファイルを作った終わりではなく、普及の状況はどうなっているのかというところは見ていきたい。

部会員

乳幼児検診の業務を行っているが、今のところサポートファイルを持参する方は見たことがない。検診対象以降の子どもたちに配られているのかとも思うが、そうすると、サポートファイルにある新生児期の記載は振り返って書かなければならないので、保護者にしてみると少し書きづらいのかもしれない。そういったところを検証していく必要があるのではないか。

育児記録を付けているお母さんたちは多いので、広く一般を対象に使えるものとして作っていくことも考えていければいいのかもしれない。

部会員

サポートファイルは1,000部作製し、関係機関には690部配付している。そのすべてが配付されたかは、把握していないが、少なくともこども発達センターの分室では実際に90部手渡している。分室で手渡した方たちには使い方は伝えているが、それだけで浸透していくのは難しいと思うので、「その後どうですか?」といった継続的な声掛けを行っている。小学校に上がる時などライフステージが変わるときには、セラピストの所見を入れて次のステージでも引き続き使ってもらえるように促している。

部会員

今年度、特別支援学校にサポートファイルを出してくれたのは、支援学級から転校してきた子どもが1名、こども発達センターから入学した子どもが1名という状況である。サポートファイルは親が書くものではなく、学校にそれを渡すことが引き継ぎになると思っている保護者もいるので、もっと丁寧に使い方を伝えなければならないと思った。

特別支援学校の子どもたちは、放課後等デイサービスを利用することが多いので、その利用のための計画相談の際に、子どもの様子を知ってもらう手段としてサポートファイルが有効であると思う。まだ、サポートファイルを活用しきれていないとはいえない。

部会員

成人期の支援をしているので、まだサポートファイルを持ってきた人を見かけたことはない。就労支援をしていく上で今までの情報を把握することは大事になる。しかし、多くの場合、ご本人も家族も子どもの頃の様子を覚えていない。

サポートファイルを障がいがあるなしにかかわらず配付している自治体もあるときく。

部会長

サポートファイルの普及は進んでいないのではないかとのご意見が多いので、今年度は「サポートファイルの普及について」を大テーマとして考えていきたいと思う。こども発達センター以外の場所でサポートファイルを持参した事例はあるか。

部会員

通所施設を運営しているが、サポートファイルを50部いただいて会員に配付した。兄弟の分がほしいという方もいたのでその方にも配付した。障がいのある人だけが渡されると抵抗感があると思うので、全員に配付すればいいのではないかと思う。

部会長

未就学児で診断を受けて、もらった手帳やサポートファイルを持って来られる方はいる。しかし、サポートファイルについて説明は受けているはずなのに、その内容を理解していない人が多い。繰り返し伝えていかなければいけないと思うが、子どもが小さければ小さいほど難しいと思う。

部会員

学校では平成27年度からの配付なので、結果が出るには時間がかかると思う。サポートファイルの必須活用場面として面談時、通院時等を明示して、学校は学校でその子の情報を記録しているファイルがあるので、お互いのいいところを使いながら支援につなげていければいいと思う。

部会員

こども発達センターでは理学療法（PT）、作業療法（OT）、言語聴覚療法（ST）、心理療法の4人がそれぞれ情報を書き込んで渡しているが、病院などに見せ

ていない等、十分に活用されていないと聞くこともある。次のステージの関係機関に必ず持参するように繰り返し伝えるしかないと思う。

部会員

小さい子の保護者にはなかなか響かないかもしれないが、「年金申請の時には記録は必要ですよ」など、どの時期に必要なのかということをもっと訴えてもよいのではないか。それぞれの年齢層に見合ったアドバイスが必要だと思う。

部会員

サポートファイルを渡すのは、手帳を申請するときがひとつのタイミングだと思う。乳幼児の場合、まだ状態が改善するのではないか、との思いが強い場合もある。手帳の申請や学校への入学の時は、ひとつの決断となるので、意識を持ってもらえるのではないか。

事務局

今は手帳を取得するタイミングでは渡していないので、そのタイミングで渡すのもひとつの方法かもしれない。

部会員

記録がないと困る時が必ず来る。小さなエピソードを記録していくことが大事で、そういうものがないと、学校の記録しか頼るものがなくなってしまう。

◆検証の方法について

部会員

これまでに配付された人に、現在の活用の方法などについて意見を求めることができれば、次にどういう形で配付すればいいのか、内容をどう変えていけばいいのか等検討できるのではないか。

部会員

個々に配付した人がわかるならアンケートのような形で意見を集めることはできないか。

部会員

利用率など数字を把握したいのであれば無記名でのアンケート、実際利用してみでの活用方法などを聞くには質問項目を設定したインタビュー方式がいい。この2パターンでやればよいのではないか。

部会長

配付した方を把握しているところは直にお話を聞いていただき、学校については無記名での回収という形でアンケートを行いたい。

事務局

項目設定は事務局で下案を作り提示するので、項目に加えたい内容があれば障がい福祉課にFAXしていただきたい。

◆今年度の部会開催時間について

今年度の開催日については、お配りしたとおりです（資料1参照）。
開始時間については、午後4時30分開始で統一する。

◆事務局から連絡

配付資料の中のピンク色の紙は研修案内です。テーマは「福祉避難所について」
です。平日開催ですが、ぜひ参加してもらいたい。

次回第2回目の部会は平成28年8月23日（火）午後4時30分から。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成28年8月10日

氏名 菅谷 幸乃 _____

氏名 平沢 真哉 _____